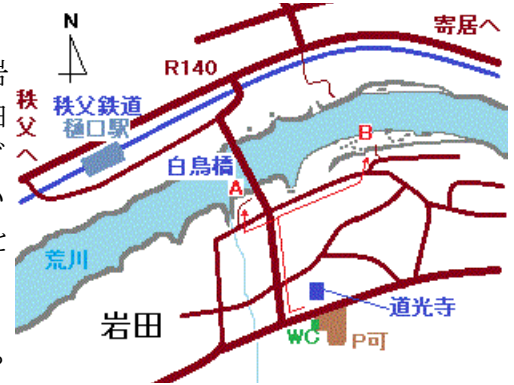


長瀨荒川 白鳥橋ボルダー

2017.8.30 retK

既に40年近くも昔のことになるが、長瀨のビューテラスエリアを登っていた頃、のんびりとサイクリングで荒川沿いの岩場を見て歩いたことがある。そしてその当時見つけたのが白鳥橋のハングである。当時はマットは当然として、シートなども使わずボルダリングをしていたので、下に岩が転がっているこのハングは、岩の脆さもあって、その後一度も訪れることはなかった。



今回、実家からの帰りにちょっと確認に寄ってみると、何んと、橋脚工事による土砂が下地を埋めて非常にトライしやすい状態になっており、自宅からはちょっと遠いが、その後再度訪れトライしてみた。

その後、下流にもボルダーが幾つかあり、小さくて易しいがちょっと遊ぶのに良いので登ってみたいので、併せて紹介する。

駐車とアプローチについては、白鳥橋から南方向に少し行った交差点の近くに、きれいなトイレ(岩田観光トイレ)もある広い駐車場がある。道を挟んで道光寺(秋の七草の尾花の寺)があるので目印となる。そこから白鳥橋まで戻り、白鳥ハングへは、手前の道を左に入ると水路があるので、それに沿って降りていき竹林を抜けると橋脚下に出る。ボルダーはそのすぐ先の小さな河原の側壁である。

下流エリアは、反対方向に右に進んで暫く行くと、(有)パークラフトという車販売整備店があるので、その手前を左に入り、少し下ると民家の先に河原に降りる道がある。途中親切にクライミングロープのフィックスも張っており、岩畳に出ると、左にスラブ岩とハング岩のある小ボルダー群、右に下流側ボルダーが見える。

なお、トポ集等の長瀨ボルダー(ビューテラスエリア)の情報では、「高砂橋」を「白鳥橋」と間違えているが、何処でどう間違ったのか不思議である。

●A: 白鳥ハング

白鳥ハングは、白鳥橋の直下にあり、高さ4m強の側壁のハングである。上は広い岩畳になっていて明るく気持ちが良い。

岩質は、長瀨周辺の岩と同じ緑色片岩という変成岩で脆いところがある。特にこのハングは下流面に当たり、水流に磨かれておらず脆いため、上から下降し浮石を大分取り除いたが、やはり登るたびにぼろぼろと落ちるのは精神的に良くないものである。

昔より下地が土砂で埋まりトライしやすくなっているが、今年の降り続いた雨で、一時期より川の増水で砂が流され、下の岩が現れて高さも増しているため、安全面には十分配慮したい。

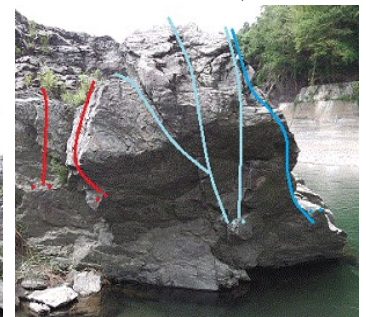
メイン課題は赤ラインで、右下の顕著なガバからLSでスタートする。リップを左上し、一旦左のハング側のホールドに入り、最後はまたリップを取って上に這い上がる。最初はリップに出ず、最後まで左のフェイスのホールドに行く想定だったが、ホールドが遠く、ホールド欠損も予想されて思い切ったムーヴもできず、結局未解決となった。マットを数枚準備しスポッターもいれば、力あるボルダラーなら解決できると思われる。なお、aは水嵩が増して右下から登れないときのショートバージョンである。

DWS っぽいフェイスは、白鳥ハングの上流側にあり浅瀬に入って行って水の中から取り付くが、

左: 白鳥ハング



右: DWS っぽいフェイス

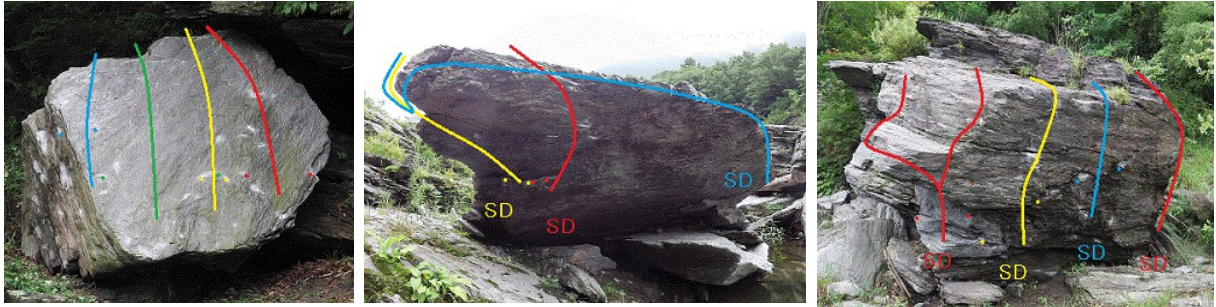


水深はあまりないので、落ちるときは確認して砂地のところに飛び降りる。ホールドは大きく、概ね確りしている。青と水色が川の中から取り付くラインである。

●B: 下流エリア

下流エリアは、大きなボルダーはないが、明るくて開放的なので、河原でのんびりするには良い。ボルダーは、スラブ岩を除いては少々脆い部分があるので下地が悪いところはマットを利用した方が良い。紹介した岩以外にも幾つかボルダーがあるが小さいので限定するかキッズ用として遊べば楽しめる。

左:スラブ岩 中央:ハング岩 右:下流側の岩



○スラブ岩

このボルダーは、きれいなスラブを持つ岩で、スメアリングや、細かなフットホールドを拾いながら登る練習に良い。

なお、この岩の後ろにルーフ状の岩があり未トライである。トライする場合は、岩が少し脆そうで、下地もあまり良いとは言えないので、マットとスポッターが必要だろう。

○ハング岩

このボルダーは、高さはないが被っており、SDトライでハングを越える課題がある。難しくはないが、初心者などにとっては、ハング越えは楽しいだろう。

○下流側のボルダー

このボルダーは、下流側の岩畳にあるボルダーで、正面に5本ほど課題を設定した。雨が続いた後に行ってトライしたので、岩の目地からの浸み出しが酷く、ホールドが濡れており意外と難しく感じたが、乾いていれば易しい課題だろうと思われる。また、脆いのでトライ中にホールドが何度も欠けたが、大分安定したとはいえ、欠ける可能性は十分あるので、トライ時は必ずマットを使用した。

右のカンテの課題のスタートホールドの左手はカンテ右のアンダーを使う。また、左のハングのスタート時は、下の石に足を置かないという限定あり。